

緩和医療学

【目的】

WHOが2002年に示した緩和ケアの定義によると、本来それはがんに限らず、エイズや慢性の経過をとる神経疾患などに伴う苦痛を緩和することも含まれている。しかし、日本人の3人に1人ががんで亡くなる現在、緩和ケアの対象のほとんどはがん患者である。年々緩和ケアへの関心も高まり、緩和ケア病棟で最後を迎えることを希望する患者も少なくない。しかしながらその要望に応えるだけの十分な緩和ケア専門病床はなく、がん拠点病院や一般病院で亡くなる患者が多いのが現状である。これらの病院で緩和ケアを充実させるため、緩和ケアチームの存在が重要視されている。

緩和医療学の臨床実習Ⅱでは、これまでの「がん治療学」の臨床実習Ⅰでは行わなかった患者の診察への同行や、主治医や病棟看護師とのやりとり、国立がん研究センター等のがんセンターと行う多地点症例検討会に参加することをプログラムとして盛り込んでいる。系統講義やポリクリで学んだ基礎知識を踏まえて、実臨床をまのあたりにすることでがん治療における緩和ケアの実際について理解し、緩和ケアの考えかた、態度、経験を積むことを目的とする。2週間の実習のほとんどは広島大学病院で行い、数日間を他院緩和ケア病棟で実習することを標準プログラムとして行っている。大学病院での実習にあたっては、主に緩和ケアチームに同行し、患者の診察を見学するという形式で行う。他院の緩和ケア病棟での実習にあたっては、独自のプログラムがあり、臨床実習Ⅰのときよりもより患者さんと接する時間が長く、踏み込んだ実習が行われている。ただし、希望があれば2週間すべて大学病院の緩和ケアチームに同行する実習も可能である。

【実習の実際と到達目標】

- 1) がん患者の疼痛をはじめとする身体的苦痛の緩和方法について、基本的な評価法を学ぶ。
- 2) がん性疼痛へのWHO方式を実践で使えるようになる。
- 3) 医療用麻薬の使い方・副作用対策について習熟する。
- 4) がん患者や家族の気持ちへの配慮について症例を通じて学ぶ。
- 5) がん患者をとりまく問題について何を知ることが重要か理解する。
- 6) その他、各人が実習で知りたいこと、勉強したいことなど希望があれば相談に応じます。

週間スケジュール（広島大学病院の場合）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
9:00～ 11:00	病棟診療	病棟診療	カンファレンス	外来及び病棟診療	外来及び病棟診療
11:00 ～17:30	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
17:30 ～	1日のまとめ	1日のまとめ	1日のまとめ	1日のまとめ	1週間のまとめ
18:00 ～			オンコロジーミーティング		
19:00 ～20:00				多地点症例検討会	

評価

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	40
ワークショップ形式の学生実習	20
指導医による口頭試問	20
実習に関するレポート（院外実習での評価）	20

諸注意など

受講することが決まった場合、早々に個別の研修のプログラムを確定する必要があるため、必ず早めに連絡をすること。

また他院緩和ケア病棟での実習には、学生に見学許可申請のための簡単な書類を作成していただく必要があります。

実習の初日は入院棟5階緩和ケアチーム室に9時に来室のこと。初日に2週間の実習についてオリエンテーションを行う。

実習に際しては臨床に携わる医療者として適切な身なりを整えること。実習終了後にはレポート課題などの提出を求める。

担当教員

山脇 成人	(教授)
小早川 誠	(診療講師)
林 優美	(助教)
濱田 宏	(准教授)
大下 恭子	(助教)
中村 隆治	(助教)

連絡先：小早川誠 メールアドレス：koba0515@hiroshima-u.ac.jp